

平成 21 年 6 月 5 日現在

研究種目：若手研究 (B)
 研究期間：2006～2008
 課題番号：18730380
 研究課題名 (和文) ケアワーカーの職務ストレス尺度の開発と燃え尽き症候群および離職に与える影響の分析
 研究課題名 (英文) A Developmental Study of Job Stress Scale for Care-Worker and Analysis for the effects on Burnout and Turnover
 研究代表者
 安部 幸志 (ABE KOJI)
 国立長寿医療センター (研究所)・長寿政策・在宅医療研究部・室長
 研究者番号：90416181

研究成果の概要：本研究は、介護老人福祉施設や介護老人保健施設等に勤務する介護職員のストレスを把握し、それらが燃え尽き症候群および離職行動へ及ぼす影響について、検討することを目的として行われた。調査の結果、介護の職務から発生するストレスのうち、「仕事の量的負担」「適切な評価の不足」「仕事の質的負担・範囲拡大」「適性への葛藤」として類型化されたストレスが、燃え尽き症候群へ影響していることが明らかとなった。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006 年度	1,300,000	0	1,300,000
2007 年度	1,200,000	0	1,200,000
2008 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
年度			
年度			
総計	3,700,000	360,000	4,060,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会福祉学

キーワード：社会福祉関係、高齢者福祉、介護老人福祉施設、バーンアウト

1. 研究開始当初の背景

近年、高齢者福祉施設における介護職の高い離職率が問題となっている。その原因として、仕事の環境 (Hayhurst et al., 2005)、不十分な給与及び仕事における裁量のなさ (Fochsen et al., 2005) などが挙げられているが、特に認知症を介護するケアワーカーにとっては、職務そのものから生じるストレスが大きな影響を与えているという (Baldelli et al., 2004)。それら職務ストレスを測定し、よりよい職場環境となるよう研究に基づく提言を行うことが求められているが、職務ストレスを定量的に測定可能な尺度は少なく、わが国における研究の蓄積は極めて不十分である。また、介護保険制度の

施行後、わが国の高齢者福祉施設における介護職の職場環境は変化しつつあるが、それらの変化を適切に捉え、現状に即した職務ストレスの研究はほとんど行われておらず、今後研究の発展が強く求められる分野である。

2. 研究の目的

本研究は、介護老人福祉施設や介護老人保健施設、介護療養型医療施設などで介護職に従事するケアワーカーを対象として、職務から生じるストレスを適切に把握するとともに、そのストレスと燃え尽き症候群や離職行動との関連について、実証的に検討することを目的とした。具体的な研究内容は以下の 2

点である。

(1) ケアワーカーの職務ストレス尺度の開発と信頼性・妥当性の検討

介護職員のストレスを把握し、関連要因を検討するためには、ストレスを測定する簡便な尺度を開発する必要がある。そこで本研究では、Benoliel et al. (1990)の Nurse stress Checklist、Eells et al. (1994)の Health Professions Stress Inventory、McCarty et al. (2002)の Professional Caregiver Burden Index、Novak et al. (1996)の BI Modified for Institutional Caregivers など欧米における職務ストレス測定尺度を参考に、現状に即した介護職の職務ストレス尺度を作成し、その信頼性と妥当性を検討することを第1の目的とした。

(2) ケアワーカーの職務ストレスが燃え尽き症候群および離職意志に与える影響

わが国では、認知症患者を介護するケアワーカーのストレスや燃え尽き症候群に関する研究は非常に少なく、ストレス症状や燃え尽き防止につながる適切な方略について、十分な知見が得られていないのが現状である。

そこで、本研究では、(1)で作成したケアワーカーの職務ストレス尺度を用いて、職務ストレスと燃え尽き症候群、そして離職意志との関連について検討することを第2の目的とした。

3. 研究の方法

(1) ケアワーカーの職務ストレス尺度の作成

予備調査によって得られた項目を用いて、郵送による質問紙調査を行い、ケアワーカーの職務ストレス尺度を作成した。対象は、岐阜県内の介護老人福祉施設に勤務する介護職員 388 名である。対象者の性別は、男性 79 名 (20.4%)、女性 306 名 (78.9%)、性別不明 3 名 (0.8%) であった。また、平均年齢は 37.9 歳 (SD = 12.4) であった。

職務ストレス尺度の項目については、先行研究を参考に、新たに 27 項目を作成し (Benjamin et al., 1990; Hatton et al., 1999; 東口他, 1998)、調査に用いた。

(2) ケアワーカーの職務ストレスと燃え尽き症候群および離職行動との関連

ケアワーカーの職務ストレスと燃え尽き症候群および離職行動との関連を、構造方程式モデリングを用いて分析した。具体的には、Maslach Burnout Index-General Survey (MBI-GS) を用いて (北岡他, 2004)、対象者である介護職員の燃え尽き状態を測定し、職務ストレス尺度の各因子との関連について、検討した。

4. 研究成果

(1) ケアワーカーの職務ストレス尺度

探索的因子分析を行った結果、「仕事のコントロールラビリティ」「仕事の量的負担」「適切な評価の不足」「仕事の質的負担・範囲拡大」「適性への葛藤」「対人葛藤」の6因子が抽出された。これらの因子に対して、検証的因子分析を用いて、尺度の因子的妥当性について検討した結果、高い因子的妥当性が認められた (表1)。また、職務ストレス尺度は、ある程度の欠損値が出現することが見込まれるため、EMアルゴリズムを用いた欠損値の推定を行った。加えて、欠損値が含まれないデータにおける分析結果とEMアルゴリズムによる推定結果を代入したデータとを比較検討した結果、ほぼ同様の分析結果が得られた。この結果は、職務ストレス尺度の妥当性と頑健性を示唆するものであると考えられた。

本研究で作成された職務ストレス尺度は、簡便ながらも介護職員のストレスを様々な側面から測定することが可能であり、適用可能性は高いと考えられる。わが国における介護職員のストレスに関する研究は未だ十分ではないため、今後、本尺度を用いたさらなる研究の展開が必要と思われる。

表1 職務ストレス尺度の因子分析結果

項目	因子負荷量
因子1 仕事のコントロールラビリティ ($\alpha=796$)	
仕事の細かいところまで口出しされる	.80
知らないうちに仕事の内容やケアの方針が変わっている	.70
職場では、足並みを揃えることが重視され、個人の自発的な行動が制限される	.72
仕事での上限関係が厳しい	.59
因子2 仕事の量的負担 ($\alpha=749$)	
いつも仕事に追われていると感じる	.77
仕事が終わらず超過勤務をしなければならない	.72
スタッフの人的資源が不足していると感じる	.66
因子3 適切な評価の不足 ($\alpha=813$)	
仕事について、適切な評価を受けていないと感じる	.90
昇格する機会にめぐまれていないと感じる	.70
仕事の割に給料が少ないと感じる	.69
因子4 仕事の質的負担・範囲拡大 ($\alpha=710$)	
仕事では、あれもこれもやらなければならない	.80
本来の職務範囲以外のこと (例えば、福祉職における痰の吸引など) を行わなければならない	.64
いわゆる「取り扱いの難しい」患者・利用者を介護している	.56
因子5 適性への葛藤 ($\alpha=685$)	
この職場では自分の能力を活かせていないと感じる	.75
他職種の人たちから、同等に扱ってもらえないと感じる	.62
自分で納得のいくケアができていないと感じる	.58
仕事上の思いや気持ちを話し、相談できる同僚が同じ勤務場所にいないと感じる	.45
因子6 対人葛藤 ($\alpha=761$)	
自分は巻き込まれていないが、上司と部下、先輩と後輩の間の対立など、人間関係のトラブルが職場にみられる	.78
同じ勤務場所で働く特定のひと、うまくいっていないと感じる	.69
職場の二人以上の人から互いに食い違ったことを期待され、板挟みになる	.67

適合度: $\chi^2(155) = 405.70, p < .001, CFI = .92, GFI = .90, AGFI = .87, RMSEA = .06$

(2) ケアワーカーの職務ストレスと燃え尽き症候群および離職行動

構造方程式モデリングを用いて、ケアワーカーの職務ストレスと燃え尽き症候群との関連について分析した結果 (図1)、MBI-GSの下

位尺度である「疲弊感」に、もっとも強い影響を与えていたのは「仕事の量的負担」であった ($\beta = .28, p < .05$)。この結果は、過重労働や時間外労働を減少させることが、介護職員の疲弊を防ぐために重要であることを示唆していると考えられる。また、「適切な評価の不足」($\beta = .15, p < .05$)、「仕事の質的負担・範囲拡大」($\beta = .12, p < .05$)、「適性への葛藤」($\beta = .19, p < .05$)も「疲弊感」に有意な影響を与えていた。

「シニシズム」および「職務効力感」については、「適性への葛藤」のみが、有意な影響を与えていた（「シニシズム」に対して $\beta = .27, p < .05$ 、「職務効力感」に対して、 $\beta = -.17, p < .05$ ）。この結果は、介護職員が仕事への情熱と仕事に対する自信を持ち続けるためには、職員の適性に考慮した配置が有益であることを示唆していると考えられる。さらに、本分析は、職務に疲弊することによって、シニシズムが発生するという因果モデルを支持しているため、仕事の負担に配慮しつつ、職員の適性を高めていくための教育・研修などを行っていくことが必要であると考えられる。

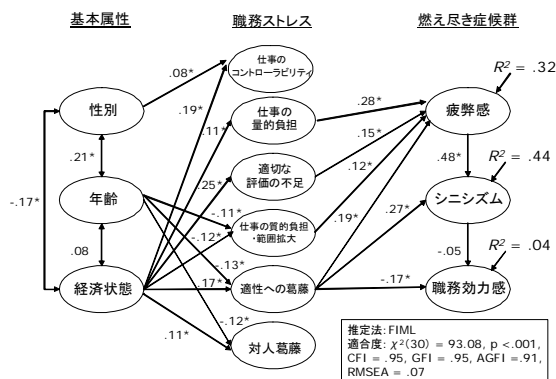


図 1 職務ストレスと燃え尽き症候群との関連

離職行動については、離職行動を（1. 前計画→2. 計画→3. 準備→4. 行動）の4段階に分類し、順序尺度としてモデル上に位置づけ、改めて構造方程式モデリングを用いて検討した。その結果、燃え尽き症候群が離職行動と有意な関連を有していることが確認された。この結果により、介護職員の早期離職を防止するためには、職務ストレスを軽減し、燃え尽き症候群を防止するための方策について検討することが、今後の課題であることが示唆された。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計3件）

- ① Abe, K. Reconsidering the caregiving stress appraisal scale: Validation and examination of its association with items used for assessing long-term care insurance in Japan. Archives of Gerontology and Geriatrics 2007, 44, 287-297. (査読有り)
- ② 安部幸志・荒井由美子・吉川羊子・後藤百万. 看護・介護スタッフにおける排泄ケアに関する自己効力感尺度作成の試み. 日本排尿機能学会誌 2007, 18, 275-279. (査読有り)
- ③ Abe, K., & Ohashi, A. Development and testing of a staff questionnaire for evaluating the quality of services at nursing homes in Japan. Journal of the American Medical Directors Association 2009, 10, 189-195. (査読有り)

〔学会発表〕（計5件）

- ① 安部幸志・大橋 明. 特別養護老人ホームにおける介護福祉サービスに対する自己評価指標の開発の試み. 第49回日本老年社会学会大会, 2007年6月22日, 北海道.
- ② 安部幸志・大橋 明. 高齢者施設における介護職員のバーンアウトと離職意志. 日本心理学会第71回大会, 2007年9月20日, 東京.
- ③ Abe, K., & Ohashi, A. Quality indicators and burnout syndrome among nursing home staff in Japan. The 60th Annual Scientific Meeting of the Gerontological Society of America, 2007年11月17日, San Francisco, U. S. A..
- ④ 安部幸志・大橋 明. 施設における職員の介護ストレスの構造と燃え尽き症候群との関連. 日本心理学会第72回大会, 2008年9月21日, 北海道.
- ⑤ Abe, K., & Ohashi, A. Effects of experience in terminal care on nursing home staff in Japan. The 61th Annual Scientific Meeting of the Gerontological Society of America, 2008年11月24日, Washington D. C., U. S. A..

6. 研究組織

(1) 研究代表者

安部 幸志 (ABE KOJI)

国立長寿医療センター (研究所)・長寿政策・在宅医療研究部・室長

研究者番号：90416181